

## 農村計画・地域デザイン

Keywords : 集落空間/建築空間、地場産業、都市農村交流、交流人口/関係人口、etc.

### ◆研究概要等

「農村計画」とは文字通り、農山漁村を計画する行為です。いわゆるムラやイナカを対象に、地域の文化や環境を現代社会に調和させながら、空間や社会、経済等に関する課題を解決していく為の「計画」≡仕組みや仕掛け、施策、制度、プロセス等を組み上げる為の学問です。

他方で「地域デザイン」とは…先程と同様に文字通りの意味ではあるのですが、やや耳慣れない言葉かもしれません。野田研究室の考える地域デザインとは、「地域に存在する有形無形・可視不可視のデザインを見出す／活かす行為」と「地域に存在する諸問題をデザインによって解決する行為」の両方を指します。いずれも単に格好良さや美しさだけで物事を考えるのではなく、広義のデザイン概念に基づき、地域の固有性や持続可能性、今日的な有用性等を総合的に捉えながら、未来の地域の姿を構想する態度に、その意義があります。

具体の研究テーマは後述しますが、基本的には以上2つの領域から地域に関わり、描写し、論じることが野田研究室の掲げるミッションです。

### ■研究テーマ等

主として農山漁村（ムラ・イナカ）や地方都市を対象に、以下のテーマで研究に取り組んでいます。

#### 1. 地域づくり手法のデザイン

地域づくりの現場に携わりながら、様々な場面での試行錯誤と一般理論化を通して、住民の参加や理解を促し、実効性ある地域づくりを進めていく為の新たな手法やツール（ワークショップの仕組み、記述や可視化の道具、集団創作の方法等）の開発と応用、社会実装を目的とした研究です。

#### 2. 地域の建築空間／集落空間

農山漁村に今なお残存する、特徴ある造形やデザ

環境・まちづくり系専攻

農村計画・地域デザイン研究室

講師

のだ みつる

野田 満



m\_noda [at] socio.kindai.ac.jp

[http://researchmap.jp/m\\_noda/](http://researchmap.jp/m_noda/)

世の中には様々な研究手法がありますが、野田研究室では現場に赴きデータを収集するフィールドワークを重視しています。地域との実直な関係構築を前提に「今まさにここで起こっていること」を高い解像度で捉えること、のみならず、様々な出会いや発見を、研究行為の内外で積み上げることを大切にしています。

インに着目し、現地調査や実測調査を通して、民家や施設、農耕地、祭事空間等の形態を司る社会背景や歴史に迫りながら、地域固有の価値の描写、及び今日的利活用や維持管理の方法等について考察、提言することを目的とした研究です。

#### 3. 地域内外の協働に基づく地域づくり

人的資源の不足する農山漁村において、地域外からまちづくり／むらづくりに関わる人々、具体的には交流人口や関係人口（ヨソモノ）と呼称され

る担い手層による取り組みのプロセスや課題等の把握を通して、これからの縮減社会における計画論を構築することを目的とした研究です。

#### 4. なりわいや技術の継承とローカルビジネス

移住者等による農林漁業及び地場産業の事業承継や、地域資源を活かした新たなビジネス創出、ほか手仕事や民藝の変遷等の事例分析を通して、地域のリソースや文脈を健全なかたちで次世代に引き継いでいく為の方法や仕組みについて考察、提言することを目的とした研究です。

#### 5. コミュニティ経済／共有（共用）経済とムラ

主に都市部で一般化しつつある、シェアリングエコノミー（シェア経済）の取り組みを一方で捉え

つつ、他方では農山漁村の日常的／慣習的な付き合いの実態や変遷についての調査分析を通して、次なる経済体系の手掛かりを見出していくことを目的とした研究です。

#### 6. 地域づくりとアート／デザイン

近年活発に展開されている、地域性を意識したアート事業やデザイン事業を対象に、その主作用／副作用としての地域づくりの賦活や、住民の心象等からみた好影響／悪影響の把握等を通して、地域課題の解決に寄与し得る芸術活動や文化振興について考察、提言することを目的とした研究です。

※これら以外の研究テーマについても、学生の興味関心等に応じて積極的に進めていきます

#### ●論文・作品・表彰・特許等

研究業績等については[Researchmapの個人ページ](#)を参照下さい。

#### ▲趣味等

趣味も仕事も遊びも休みも概ね同じものだと思っています。有形無形、日々何かをつくることに没頭しています。

#### ◆ゼミの宣伝等

**基本的方針：研究的実践の3年、実践的研究の4年** 配属1年目（B3）は文献／書籍の輪読やミニレクチャー、現地でのプロジェクト参画、コンペ等を軸とした、学術的インプットと現場へのアウトプットとを併行する「研究的実践」の1年になります。B4は逆に現場でのインプット×学術的アウトプット（学位論文執筆）の「実践的研究」をベースとした取り組みを想定しています。adobe系デザインツールやデザイン論のレクチャー、ゲストを招いての座談会、他大学との合同ゼミ等も積極的に行う予定です。

**デザイン力と知的体力** 本研究室は、思考や事象を適切に可視化/構造化する「（広義の）デザイン力」と、物事を考え続ける/生み出し続ける「知的体力」を、指導の軸として、或いは研究/実践の為の武器として大切にしています。この2つの力は、社会へと飛び立ってから、或いはどんな分野であっても必ず役に立つスキルです。

**多目的社会集団としての研究室** 研究室は学生の自治を前提とした研究体であり運動体です（誤解を恐れず言えば、野田自身もメンバーの1人でしかない存在です）。運営・マネジメントの大変さの一方、学生の自主企画やレクリエーション等、楽しみ方も無限大です。共に手も頭も動かして学び合う多目的社会集団の一員としての野心と能動性を、学生の皆様に期待します。